

新型の大口徑破砕機導入

エコロ

効率と安全性を向上

パレット46枚を10分で処理

プラスチックリサイクルや関連機器販売などを手掛けるエコロ

(本社・埼玉県富士見市、後藤雅晴社長、049・265・8390)はこの度、同社

「所沢マテリアルセンター」(埼玉県三芳町)に仏ENMA社の「E.P.S.大口徑破砕機」を導入した。独自の発想

による1軸式破砕機で、10分間で同時に約46枚(約500kg)の

当のパレットを30×50cm角の大きさに粗破砕する。

操作は、幅約2・5m×長さ約16mのプラットフォームにパレットなどの処理対象物を置いて、前部と上部のカバーを閉じてから操作盤のスイッチを入れるだけというシンプルなもの。

プラットフォームに置いた処理対象物を油圧プッシャーで水平方向に押し、1軸式破砕機で削るよう

にして粗破砕する。もともと高密度ポリエチレン製の大口徑パイプを破砕するために開発された装置を、パレットや家庭系プラスチック用品など硬質プラスチックくずを大量に



大量のパレットを一気に破砕(30×50mm角に粗破砕)

処理する装置として力スタマイズした。新たな大型破砕機導入で、従来はギロチンを使って長時間をかける

で切断していた作業工程を自動で行うことができるようになり、作業効率を大幅に向上するとともに、安全性を

向上し、省人化も実現した。同社では従来、所沢マテリアルセンターに集荷した硬質のポリプ

ロレンクスやポリエチレンくずについては必要に応じて圧縮してから、「緩瀬リカバリセンター」(神奈川県緩瀬市)に搬送して破砕、粉砕、洗浄・比重差選別、再生パレット加工などを行ってきた。新たな大口徑破砕機の導入で横持ちの際の輸送効率も上げることができるとしている。

後藤社長は、「リサイクル業界でも人手不足対策や労働環境改善は待ったなしの状況にある。今後さらに機械化・自動化を進めるこ

とで生産性を高め、効率よく業務を行える環

低濃度 PCB 廃棄物処理

OHNO オオノ開金株式会社

0120-504-177

オオノ・アソシエイツ

Mixture for the Future

境を整えたい」と述べている。